

歯科点数表の歯学生向けテキストを刊行

歯科医療管理学は歯科医師になってから役立つ

鳥山佳則氏に聞く

東京歯科大学歯科医療管理学教授



プロフィール

鳥山佳則(とりやま・よしのり)／
1987年3月、大阪大学歯学部を卒業し、同年5月厚生省入省。その後、本省から静岡県庁、東京医科歯科大学、茨城県庁にも勤務。2010年7月に厚生労働省保険局歯科医療管理官に就任。12年9月に社会保険診療報酬支払基金本部の歯科専門役。14年1月、厚労省医政局歯科保健課長に就任し、16年3月に同省を退職。同年6月に東京歯科大学歯科医療管理学教授に就任、現在に至る。

厚生技官の道を 選んだきっかけと目標

小林顕広報・ホームページ部員 歯科医師を志した動機について。

◆鳥山佳則東京歯科大学教授
実は、私の家系が親類縁者には、歯科医師は一人もいません。内科医をしている従弟が一人います。歯科医師を志したのは小学生のわりたいと考えましたが、ヨーロッパの多才なデザイナ―の実力を見て「かなわない」と思いました。そのような時、小学生の頃の記憶がよみがえりました。

七十五歳以上人口の急増により、日本は本格的な超高齢社会に足を踏み入れた。それとともに歯科の患者も高齢化が進んでいる。8020運動の成果もあり高齢者の残存歯は増えている。しかし、外来通院が可能な高齢者、九十歳そして百歳の歯科患者の治療には、従来からの理論や技術がそのまま通用するとは考えられず、全身管理上のリスクも伴う。診療報酬はそういうリスクをどう補っているのか。

こうした視点から高齢者への歯科医療を見守り続けているのが今回紹介する東京歯科大学歯科医療管理学教授の鳥山佳則氏だ。鳥山氏は旧厚生省時代から厚生労働省時代まで、延べ二十九年間にわたり歯科医師として厚労省の技官を務め、診療報酬と医療保険制度畑を歩んできた。来たる二月には、日本初の歯科大学生向けの診療報酬関連テキストとして『歯科診療報酬入門（仮題）』を刊行する。これまで把握してきた歯科診療報酬、保険点数の仕組みを初心者向けに紹介する内容だ。今回は鳥山氏に、歯科医療管理学とは何か、これからの診療報酬改定や今後の日本の歯科医療に関する方向はどのようなのか、などについてうかがってみた。

保険点数の仕組みを初心者向けに紹介する内容だ。今回は鳥山氏に、歯科医療管理学とは何か、これからの診療報酬改定や今後の日本の歯科医療に関する方向はどのようなか、などについてうかがってみた。

—大阪大学歯学部入学後に、当時の厚生省技官採用試験を受験しようと考え

◆鳥山氏 大学四年の頃、

口腔外科教授の宮崎正先生の授業で「厚生技官」の存在を知りました。そこへ六年の時に受けた西村周三先生の「医療経済学」の講義内容が重なり、意識の中で厚生技官志望の意思にス

グッチが入りました。技官試験は六年の時に受けて合格しましたが採用は確定せず、一九八七年三月に大学を卒業後、同年五月二十日に正式採用されました。気が付けば二十九年が経過していました。

―厚生技官になった時の目標はどのようなものでしたか。その結果は。

点数表全体に当てはまる基本的ルールは3本

—歯科医療管理学とはどのような内容ですか？

◆鳥山氏 歯科医療管理学は多くの内容を含みますが、私は医療保険制度、特に診療報酬を専門としたいと考えています。基礎系、臨床系の科目は、歯科医師になるための教育内容です。しかし、私の担当分野は歯科医師になってから役立つ教育内容となります。まだ着任して間もないので、本格的には来年度からです。

ー来年度から本格的に学生に教授したい内容や、今後の教育ビジョンについて。

◆鳥山氏 二十九年にわたり厚生労働省で技官を務め

◆鳥山氏 私が厚生省に入省した一九八七年頃から「これから高齢化対策の時代だ」といわれていました。世界に類をみない高齢化が進む日本がどのような政策をとるのか、日本の方向を世界中が注目しており、高齢者への歯科医療政策でお手本を示すことではないかと思いました。

ましたが、職務の多くが医療保険分野。そこで痛感したのは「点数表に関する初心者、学生向けのテキストや解説書がない」という点

です。歯科医療界には青本などはありませんが、臨床経験のない学生、卒業して間もない歯科医師は、その読み方さえ分からない。そこで、学生向けテキストを製作することにしました。このテキストの特長は、歯科点数表の理解のため、①事例から点数表を見る、②青本を学び、基礎知識を理解して個別事例に当てはめる、の両方を融合させたことです。点数表全体に当てはまる基本的なルールを理解する。その結果、個別の事例が理解できることを狙いました。

診療報酬改定の苦心談

―ところで、実際に診療報酬改定を行った際の苦心談などを。

他省庁や政府、さらに社会全体の進もうとする方向を理解し、診療報酬のルール

◆鳥山氏 二〇一二年年度改定の時の障害者加算を例にしますと、まず、全省庁の法律で障害者がどう定義されているかをリスト化し、厚労省の施策全体の方向、予想した検討が必要です

を守りつつ検討を進めました。非常に多くの労力と時間が必要です。改定直前では間に合いません。事前にはさまざまなこと、困難をも

日本の歯科医療と 歯科診療報酬の問題点

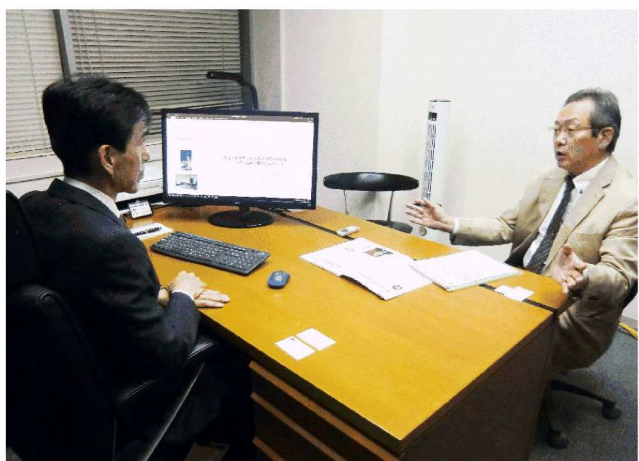
ミッドに例えると「キノコ型」を呈すと思います。しかも、高齢者の歯科治療に

鳥山氏 各種データから、日本では歯科疾患が軽化しています。若年者のう蝕は減り、多数歯が残存している高齢者が増加しています。したがって、今後の歯科医療ニーズは、人口ピラ

は全身管理上のリスクが伴うだけでなく、これまでの術式をそのまま適用できないケースもあるでしょう。そのため、高齢者に対する配慮を加味した診療報酬体系を創る必要があると思います。ちなみに、高齢者へ

―そのテキストの書名を
教えてください。また、
現行の診療報酬点数表を
どう思いますか。

◆鳥山氏 書名は『歯科診療報酬入門(仮題)』の予定です。現行の診療報酬点数は複雑になっていることは間違いなし、細分化しすぎていてと思っています。また、電子レセプトになっ



インタビューは東京歯科大学の鳥山氏の教授室で行った。右は、聞き手の小林広報部員。東歯大は小林部員の母校

菌科医師が
地域包括ケアの「コア」に

一次に、地域包括ケアについて伺います。歯科診療現場では、なかなか実感が持てない歯科医師が多いのですが、

◆鳥山氏 地域包括ケアはともキーパーソンとして活躍してほしいと思います。

「各地域で仕組みを作ってください」というものです。具体的なお手本やテキストはありません。そのため、

ーこのたびは、いろいろと興味深いお話をいただき、どうもありがとうございます。

ございました。『歯科診療報酬入門』の刊行も楽しみにしております。(了)